

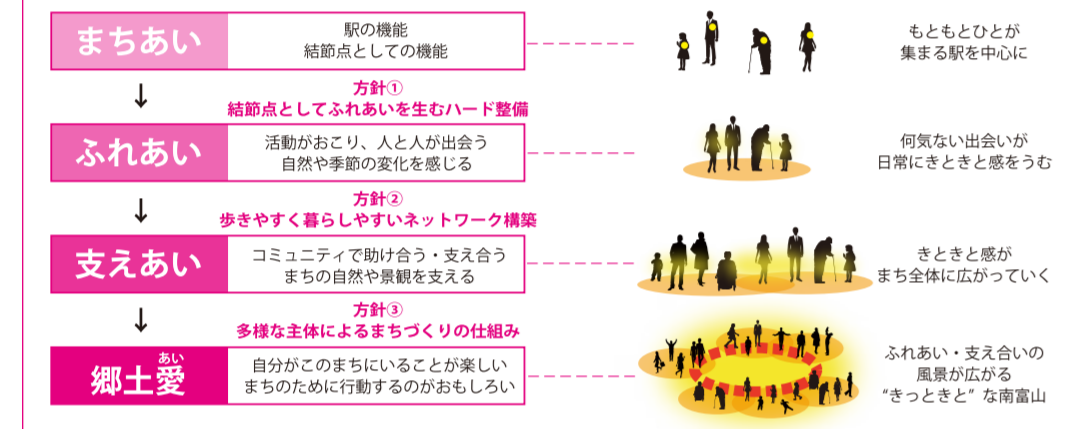
“きつときと”な街に“あい”の風が吹く

LRTの上滝線への乗り入れによって南富山の位置づけが変わろうとしています。「まちあい」の場であった駅周辺に「ふれあい」や「支えあい」が生まれ、地域住民や駅利用者の「郷土あい」が醸成される、魅力的なまちとなります。

毎日が“きつときと”な雰囲気です。春に吹く「あい」の風のように居心地のよいまち、南富山。



【コンセプト】4段階の“あい”を満たした“きつときと”なまちへ



“きつときと（=いきいきとした）”なまちは「人と人」や「人と場所」との関係性が豊かになればなるほど醸成されます。その関係性の密度を「まちあい」「ふれあい」「支えあい」「郷土愛（あい）」の4段階の“あい”の状況として定義した上で、地域の人々が「郷土愛（あい）」をもち南富山周辺にいるすべての人々が生き生きと、「きつときと」な状況で生活できるような空間整備とまちづくりの仕組みを構築していきます。

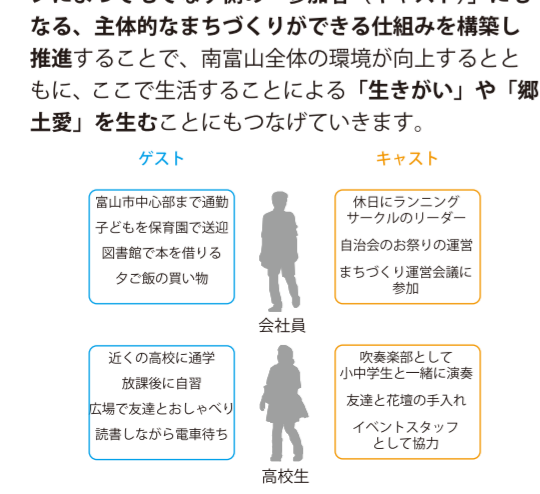
【整備方針】様々なものを関係づけることにより“きつときと”な場所へ

【方針①】-「まちあい」から「ふれあい」に-
-結節点としてふれあいを生むハード整備-
南富山は古くから飛騨街道と立山街道の結節点に近いことから鉄道網の要所・貨物や物流の結節点として発展してきました。今後の富山市の公共交通を軸とした「お団子と串」の全体構造の位置づけの中で、南富山周辺は「多様な人が多様な時間を過ごす場」という本来の性質を生かした多世代が結びつく場をきつときと広場や駅周辺を中心に生み出すことで、人と人、人と活動などが結びつく場を作り出します。また、所々自然と人との結節点となる部分においては小広場を整備し、地域住民や高校生などの結節点（居場所）とします。



【方針②】-「ふれあい」から「支えあい」に-
-歩きやすく暮らしやすいネットワーク構築-
南富山駅から太郎丸公園および市民病院入口までの600m（徒歩10分）の間に既存の緑や水路といったポテンシャルを生かした散歩道の整備、辻となる部分の低未利用地を小広場としてリノベーション、路地空間の修景を行うことで、歩きやすいネットワークをつくります。また、コミュニティバスの整備といった交通ネットワークや、多世代居住の推進支援などの人のネットワークの構築を行うことにより暮らしやすいまちとなります。

【方針③】-「支えあい」から「郷土あい」に-
-多様な主体によるまちづくりの仕組み-
まちづくり会社を中心とし、多様な主体が参加する仕掛けをつくり、様々な活動が生まれる場所とします。地域住民のみならず、南富山に通う人や高校生といった多様な主体がそれぞれ、もてなされる側としての「利用者（ゲスト）」であるとともに、シーンによってもなす側の「参加者（キャスト）」にもなる、主体的なまちづくりができる仕組みを構築し推進することで、南富山全体の環境が向上するとともに、ここで生活することによる「生きがい」や「郷土愛」を生むことにもつなげていきます。

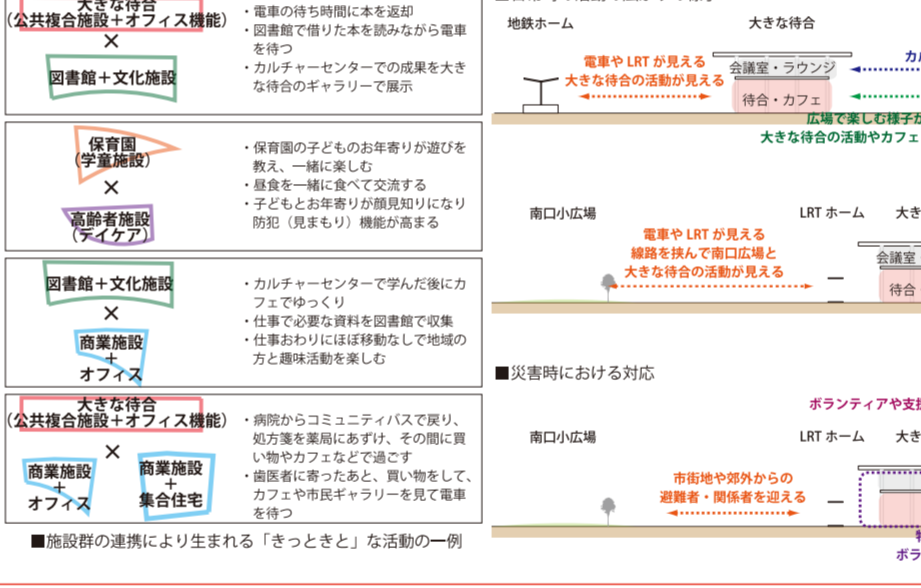


【駅周辺再整備】多世代が集まりお互いの活動を通して交流する空間による“きつときと”な雰囲気の創出

■大きな広場（きつときと広場）を中心に施設群を配置し互いの活動が見える関係
駅周辺は、駅機能を中心とした複合施設の前面に大きな広場がありその向かい側に図書館や文化活動のための施設、保育園、高齢者施設（デイケア）、商業施設+オフィス（事務所）機能、商業施設+集合住宅（サービス付き高齢者専用住宅も一部含む）を配置した構成とし、駅だけの利用者にとっても様々な人の活動を感じ取れる空間構成としています。また、大きな広場（きつときと広場）はまちの路地や駅空間とも直接つながり、散歩道や通学路のひとつとしても利用できます。



■世代や滞在時間にとどまらない、多様なアクティビティによる“きつときと”な雰囲気の創出
通勤通学で駅を利用する会社員、買い物や図書館に本を読む等の施設を目的で訪れる主婦や高齢者、保育園や高齢者施設の利用者やその家族といった多様な世代が利用する空間となるとともに、乗り換えのためにちよっと時間をつぶす、高校生が自習をする、カフェでおしゃべりする、カルチャースクールで何かを学ぶといった多様な滞在時間も担保する空間となり、様々な人や目的を受け入れる場所となります。またバスロータリーはイベント時などには広場空間としても転用でき、大きなイベントや地域のお祭り、朝市等によりまちにぎわいがうまれ、「きつときと」な広場となります。またICや病院に近いこと等から大規模災害時においては重要拠点として機能します。



【歩きやすいまち】みちと広場のネットワークの形成

■散歩道「きとときとみち」のリングを多層的に構成
農業用水沿いや路地空間、および交通量が多い道路の歩道を再整備し、水路沿いや散歩道が交わる場所においては小広場を整備します。そのようにすることで、既存の自然（緑・水）ポテンシャルや小広場同士が結びついた散歩道「きとときとみち」を駅を中心に多層的に構成します。

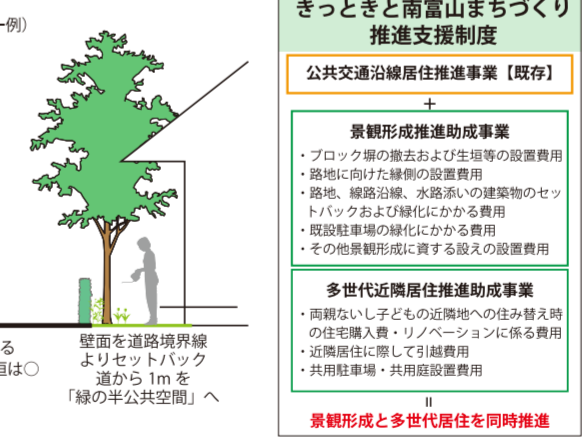
■住民主体の緑のネットワーク
路地空間やきとときとみち沿いには住宅の緑の溢れ出しや市民農園やクラインガルテンといった近隣住民が自ら管理する緑がネットワーク化されるように整備します。路地空間の魅力化によって毎日新しい発見があり、住民あるいは病院関係者や高校生といった地域に関わる人同士のふれあいが増えるまちとなります。



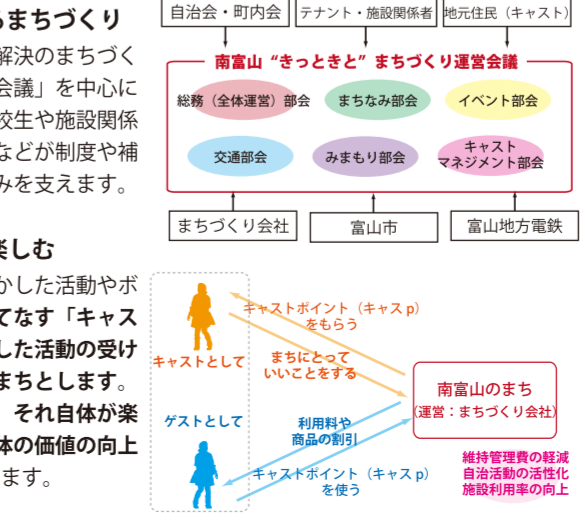
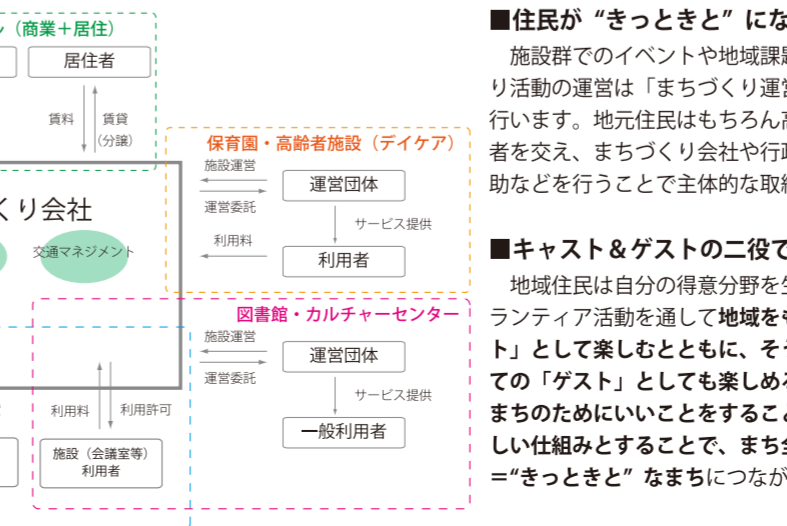
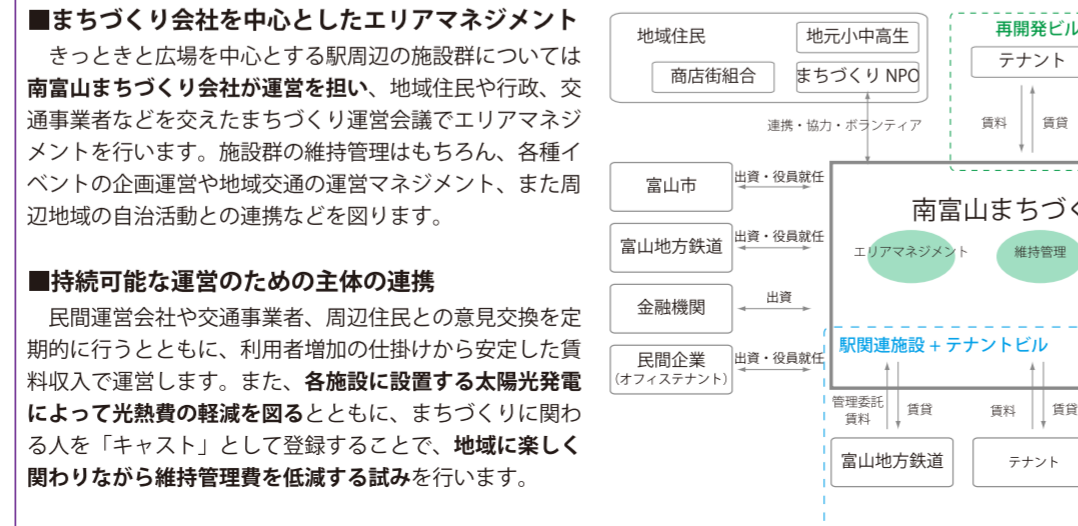
【暮らしやすいまち】景観形成と多世代居住の同時推進

■景観協定による住み替え時の空間の魅力化
南富山駅周辺の密集住宅地において景観協定を策定し、住み替え・建て替え時に空間の魅力化を誘導することでまち空間の再整備とともに継続的に空間を魅力化させます。景観協定をベースにまちなみに寄与する細かな設えの設置費用に助成金を上乗せすることにより、まちの魅力化を図ります。

■多世代の近隣居住の促進
多世代の近隣居住は双方にとって多くのメリットがあります。空家などを多世代居住希望者が新築・改築する際に助成金を上乗せするとともに駐車場の多世代共有化などを促進することで景観形成にも寄与する仕組みをつくります。



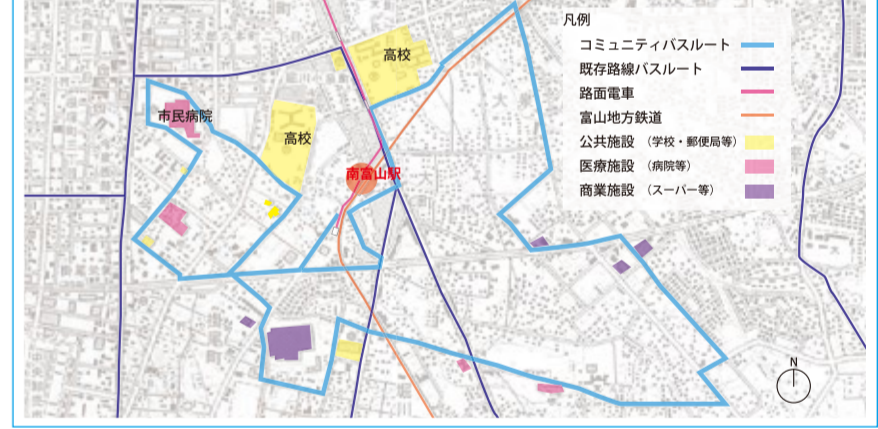
【持続可能なまちづくりの仕組み】多様な主体の参画と地域住民による参加により“きつときと”な暮らしを実現



【広域交通】車なしでも生活可能な地域交通ネットワーク

■大きい交通と小さな交通の組み合わせ
LRTや地鉄、既存の路線バスといった交通網に加え、南富山駅周辺をめぐるコミュニティバス（きとときとバス）を整備します。市民病院をはじめとした医療施設やパイパス沿いに展開する大手量販店および周辺に立地する公共施設を結び、南北のバス路線網の中間に位置する地域においても車なしで生活でき、地域の住民の南富山駅の利用率の向上が期待できます。また、南富山駅-富山市市民病院間は直通（往復）のデマンドバスを運行し、上滝線利用者など市南部郊外部の利用者が市民病院を利用しやすい環境を整えます。

■バリアフリー化したみち空間とパーク＆ライドの促進
路地空間などにおいては段差解消および消雪設備の設置によって「冬でも車いすで駅まで行くことができる」空間を整備します。南富山駅では、各公共交通機関間の乗り換えしやすい構成とし、待ち時間も楽しめる空間構成としています。また、駅周辺整備による利用者駐車場をパーク＆ライド利用者駐車場と兼用することによって、公共交通の利用を促進します。集合住宅居住者にはカーシェアリング制度も導入することで、車なしでも生活できる環境を整備します。



【事業手法】官民連携のトータルデザイン

■民間資本をとり入れた駅周辺再整備
駅周辺再整備事業については、公共事業や市街地再開発事業とともにPFI（DBO方式等）といった公民連携手法も取り入れて実施します。多くのステークホルダーが関わり、それぞれが設計施工等を行うことから、統合したデザインになるよう、市を中心とした「南富山デザインマネジメント会議」を設置し、全体として調和のとれたデザインになるためのコントロールを行うとともに、地域住民とのワークショップなどを開催して主体的に取組みを行います。

■良好な住宅地を形成するための事業の連携
駅周辺地域から離れた部分については、「南富山景観協定」を策定しそれをもとに建て替え等によってより魅力ある空間へと誘導し、国の「街並み環境整備事業」によって路地空間等の高質化を図ることによって、駅周辺の住宅地の魅力を向上させます。また路地空間はゾーン30を設定し歩行者優先の道路空間とします。これらと富山市の「公共交通沿線居住推進事業」との連携（きつときと南富山まちづくり推進支援制度）によって南富山周辺が歩きやすく住みやすいまちとなります。

